

# 第98回 品質管理シンポジウム

特典  
女性参加者は  
ご優待

## グローバル時代における ダイバーシティを取り込んだ品質経営の実践

### ● 特別講演

「持続可能な開発を超えて  
～21世紀のイノベーション～」

渡邊 浩之 氏  
内閣府 政策参与  
ITS Japan 会長  
トヨタ自動車(株) 技監



### ● 基調講演

「ダイバーシティ経営と  
WLB支援の課題」

佐藤 博樹 氏  
東京大学  
大学院情報学環 教授



### ● 講演 1

「IBMのグローバル経営と  
ダイバーシティ推進」

梅田 恵 氏  
日本アイ・ピー・エム(株)  
人事広報部  
部長



### ● 講演 2

「経営戦略としての  
ダイバーシティ」

佐々木 常夫 氏  
(株)佐々木常夫  
マネジメント・リサーチ  
代表取締役



### ● 講演 3

「富士通における  
ダイバーシティ推進の取り組み」

塩野 典子 氏  
富士通(株)  
ダイバーシティ推進室  
室長



日時 2014年6月5日(木)～7日(土)

会場 箱根ホテル小涌園

主催 一般財団法人 日本科学技術連盟

後援 一般社団法人 日本品質管理学会

特典 今回限定!!  
女性参加者は  
ご優待!!

今回のシンポジウムは、今後、日本の国内企業が発展するうえで大事なキーワードとなる「ダイバーシティ」をテーマとしています。

是非、御社で活躍されている、または活躍を期待されている女性の皆様に、積極的にご参加いただき、グローバル時代におけるダイバーシティの考え方を取り込んだ品質経営の実践方法を模索したいと思っております!!  
ご参加を心よりお待ちしております!

# 第98回 品質管理シンポジウム 講演概要

6/5(木) 特別講演

## 「『持続可能な開発を超えて』～21世紀のイノベーション～」

渡邊 浩之氏 内閣府 政策参与 ITS Japan 会長 トヨタ自動車(株) 技監

ノルウェーのブルラント首相は1987年、「持続可能な開発とは、将来の世代の要求を満たしつつ、現代の世代の要求も満足させる開発である。」と提唱し、現在でも「環境課題解決の普遍的方針」とされています。これは、当時の開発が自然資本の搾取・破壊によって社会資本・金融資本の発展を促した時代背景を示しています。自動車の歴史を振り返り、現在抱えている課題と技術の変化から将来の移動社会を予測し、21世紀のイノベーションに必要な要件について議論します。自然資本の保全のみならず、地球的課題の解決には、技術だけでなく、インフラ・社会システムから人々の行動様式に到る幅広い社会資本の革新が必要となります。



6/6(金) 基調講演

## 「ダイバーシティ経営とWLB支援の課題」

佐藤 博樹氏 東京大学 大学院情報学環 教授

ダイバーシティ・マネジメントは、特別な取り組みではなく、人事管理の基本である“適材適所”の考え方に対応します。ただし、これまでの考え方を変えなくてはならない部分もあります。それは“適材”の範囲を拡大し多様化することです。これまでの人事管理は、“適材”として日本人、男性、フルタイム勤務でかついつでも残業ができる「時間制約のない」人材を想定してきました。こうした“適材”の枠を取り払い、それ以外の人材も活躍できるように人材活用を改革することでダイバーシティ・マネジメントを実現できます。



6/6(金) 講演 1

## 「IBMのグローバル経営とダイバーシティ推進」

梅田 恵氏 日本アイ・ビー・エム(株) 人事広報部 部長

日本経済復活のシナリオとして、女性活用をはじめとするダイバーシティ（多様性のある人材活用）の推進が改めて注目を集めています。

1990年代前半、日米同時に赤字に転落したIBMが復活を遂げることができたのは、ダイバーシティ推進を経営戦略の柱としたさまざまな組織風土改革、業務改革によるものです。

組織にイノベーションを起こし、厳しい環境下で企業が成長していくためには、どんな事情をかかえた社員でも、持っている能力を十分に活用し、会社の成長に貢献し、危機に強い企業体質を作っていくことが必要です。どのような人事制度、プログラムが効果的かなど、IBMの事例をご紹介します。「強い日本」をどう作るか、皆様と一緒に考えさせていただければ幸いです。



6/6(金) 講演 2

## 「経営戦略としてのダイバーシティ」

佐々木 常夫氏 (株)佐々木常夫マネジメント・リサーチ 代表取締役

自閉症の長男を含む3人の子と肝臓病とうつ病を患い43回の入院と3度の自殺未遂をした妻を抱え、家族の命と心を守りながら、同期トップで取締役になった体験談。家族とは何か、仕事とは何か、生きるということとは何かを問います。そして逆境の中、大きな組織で働いてきた経験から経営戦略としてのダイバーシティの重要性、リーダーシップについても説いていきます。



6/6(金) 講演 3

## 「富士通におけるダイバーシティ推進の取り組み」

塩野 典子氏 富士通(株) ダイバーシティ推進室 室長

富士通では、FUJITSU Wayに基づき、2008年6月に組織を新設し、ダイバーシティを推進しています。社員一人ひとりが多様性を受け入れ、活かすことで、個人の成長・やりがい向上、企業の競争力強化・成長につなげていくことを目指しています。「組織の風土改革」、「個人の活躍支援」、「多様な働き方と生産性向上」の3つの重点施策を掲げ、様々な施策に取り組んでいます。2011年度からは、従来の施策に加え、これまでの活動を通じて明らかになった個別の課題を踏まえ、「職場でのダイバーシティ推進活動の支援」、「女性社員のさらなる活躍支援」、「国内グループ会社への展開」の3点にも取り組んでいます。



# 品質管理シンポジウム賛助会員入会のご案内

当財団は、創立以来その社会的使命に鑑み主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目を浴びるまでに成長いたしました。

今日のように激変する経営環境の中で、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されるとともに、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためには関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催しておりますのは、この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。

是非、本シンポジウム賛助会員にご入会いただきますようご案内申し上げます。

## 過去の主な講演者（組織名・役職は講演当時の表記になっております）



第97回  
（株）プリチストン 相談役  
荒川 詔四氏



第96回  
（株）ローランドベルガー-日本法人会長  
遠藤 功氏



第85回・第95回  
サムスン電子 常任顧問  
Y. W. Lee 氏



第94回  
東京都市大学 教授  
涌井 史郎氏



第93回  
一橋大学大学院 教授  
一條 和生氏



第92回  
中村ブレイス 社長  
中村 俊郎氏



第91回  
良品計画 会長  
松井 忠三氏



第89回  
新日本製鐵 代表取締役会長  
三村 明夫氏



第89回  
日本マクナドバ 会長兼社長兼CEO  
原田 泳幸氏



第88回  
小松製作所 代表取締役会長  
坂根 正弘氏



第87回  
花王 前会長  
後藤 卓也氏



第86回  
経済同友会 代表幹事  
桜井 正光氏



第84回  
同志社大学 客員研究員  
ロバートE コール氏



第83回  
経団連 名誉会長  
奥田 碩氏

## 品質管理シンポジウム 賛助会員会社（日科技連賛助会員とは異なります）※2014年3月1日現在

1 アイシン・エイ・ダブリュ(株)	15 澤藤電機(株)	28 (株)セキソー	41 (株)豊田自動織機	55 フジミ工研(株)
2 アイシン精機(株)	16 サンデン(株)	29 ダイキン工業(株)	42 トヨタホーム(株)	56 ペンてる(株)
3 (株)アドヴィックス	17 サンデンシステム エンジニアリング(株)	30 ダイヤモンド電機(株)	43 長津工業(株)	57 (株)保志
4 (株)IH I		31 (株)竹中工務店	44 日華化学(株)	58 前田建設工業(株)
5 (株)MCシステムズ	18 サンデン物流(株)	32 (株)千代田グラピヤ	45 (株)日科技連出版社	59 (株)前田製作所
6 オージー技研(株)	19 サンワテック(株)	33 (株)TTM	46 日産自動車(株)	60 三島食品(株)
7 大塚化学(株)	20 (株)GSユアサ	34 (株)デンソー	47 日産車体(株)	61 (株)村田製作所
8 岡谷電機産業(株)	21 (株)ジーシー	35 東海ゴム工業(株)	48 (株)日本科学技術研修所	62 (株)メイドー
9 オムロン(株)	22 (株)ジーシーデンタルプロダクツ	36 (株)東京ビジネス ソリューション	49 日本電気(株)	63 名北工業(株)
10 鹿島建設(株)	23 (株)ジェイテクト	37 東レ(株)	50 パナソニック(株)	64 (株)安川電機
11 関西電力(株)	24 清水建設(株)	38 トクラス(株)	51 (株)羽生田製作所	65 (株)ユニバンス
12 コーセル(株)	25 シャープ(株)	39 トヨタ自動車(株)	52 日野自動車(株)	66 (株)リコー
13 コニカミノルタ(株)	26 JUKI(株)	40 トヨタ自動車東日本(株)	53 富士ゼロックス(株)	67 リコーエレメックス(株)
14 (株)小松製作所	27 積水化学工業(株)		54 富士電機(株)	68 リコーテクノロジーズ(株)

## 品質管理シンポジウム 賛助会員特典・入会費用

- 特典 1** 品質経営（革新）のための次代の指針と最新情報が入手できます。
- 特典 2** 参加企業各社の品質に関する最新情報が入手できます。
- 特典 3** 本シンポジウムに毎回1名様が無料で参加でき、2名様以降は特別価格でご参加いただけます。
- 特典 4** 本シンポジウム、発表報文集・実施報告が無料で入手できます。
- 特典 5** 小田原駅から会場（箱根ホテル小涌園）まで会員限定の無料送迎サービスをご利用いただけます。
- 特典 6** 一部の講演を会員専用ページから視聴いただけます。（講演者の許可を得た映像に限りませんので不定期です）

入会費用 1口につき年額187,920円（消費税含む）

上記入会金をお支払いいただきますと 1名様参加枠（無料）を確保できます。  
2名様から特別価格（43,200円）でご参加いただけます。

## 問い合わせ／入会申込み

E-mailまたはお電話にてご連絡いただければ、品質管理シンポジウム賛助会員申込書をお送りさせていただきます。

一般財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当（茂田／清田）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL：03-5378-1213 FAX：03-5378-9842 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

# グローバル時代におけるダイバーシティを取り込んだ品質経営の実践

## 趣旨



中尾 眞氏

(株)ジーシー  
取締役会長

第98回品質管理シンポジウム  
担当組織委員

近年、中国、インドに代表されるBRICS、ASEAN 諸国など新興国の台頭が、21世紀のグローバル競争時代の世界市場に及ぼしたインパクトは大変大きなものであった。それは新興国のGDP、GNI等の拡大により購買力の著しい増加が「世界の工場」から「世界の市場」へと大きく変化させたからに他ならない。

日本のモノづくり企業は、1960年代から自動車、電機産業を中心に海外展開の第一歩として輸出や海外工場における生産、それに伴うバリューチェーン構築のためのサプライヤーまた、子会社の同時進出というような形態で海外進出を進めてきた。しかしながら、日本のモノづくり企業の特徴として、第一に世界から賞賛されてきた高品質・高性能の「良いモノづくり」発想は時として新興国を中心とした海外では受け入れられないことも多々見受けられた。それは偏にGDPを始めとするGNI（国民総所得）や購買力の低さによるものが大きく影響していたと言えるだろう。また、こうした経済的な問題のみならず世界のそれぞれの地域や、国柄、民族、性別、宗教、文化など、多様な環境からくる顧客ニーズの多様化に対しての研究や理解が十分でなかったことも否めない事実である。

このように顧客ニーズの多様化を考慮した活動は、人間一人ひとりがもつ様々な違いを受容し、それらを価値として活かすことで人材の多様性を企業の競争力向上の原動力にしようとする考えであり、グローバル時代における企業間競争を優位に進めるための大きな企業戦略のひとつになるものと位置づけられ必要かつ不可欠の考えであると思われる。

## 本シンポジウムの の特長

- ① 今後の日本の品質管理の指針を示します。
- ② 質疑応答の時間を設け、日本を代表するゲストスピーカーから深掘した話を聞くことができます。
- ③ 「談話室」「グループ討論」「立食パーティー」など参加者が交流できる場を数多くご用意しています。

次に政府や経済同友会、経団連の旗振りのもと、国際的に見た女性の地位向上の遅れや少子化という社会的大きな課題への対応が日本のモノづくり企業にも迫られている。

女性の能力向上を目的としたアクションプランや次世代育成支援を中心としたワーク・ライフ・バランス（仕事と私生活の両立）支援に注力する企業も増えてきている。また、社会における企業の社会的責任という意味ではCSRの中でダイバーシティは大きな位置を占めるに至っている。このような社会的要請によって現在、日本のモノづくり企業は好むと好まざるとにかかわらずダイバーシティに取り組むことが急務となっている。

本シンポジウムでは、グローバル時代を生き抜くために、日本のモノづくり企業が、ダイバーシティの考え方を取り込んだ品質経営の実践方法を模索する。

まず経営者の役割としてどのように従業員一人ひとりが持つ様々な違いを企業の中に受容し、それをいかに価値として活かしていくか。また、グローバル市場において世界のあらゆる地域の様々な顧客ニーズに対応した製品・商品開発の在り方を探るとともに、それを支える技術者の育成方法についても考える。また、同時に多様性を受容しそれを育て、一人ひとりが企業の共通の目的・価値観を共有するためのビジョン、ウエイを理解して組織の中に根付かせるかなど、多様性が強い「個」の確立を促進させ、そのことが日本のモノづくり企業にとってグローバルな競争力を中長期的に高めていく上で不可欠であるということも考えていきたい。

## 品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略) ※◎は第98回品質管理シンポジウム担当組織委員



圓川 隆夫

東京工業大学 教授



佐々木 眞一

トヨタ自動車(株) 相談役・技監



鈴木 和幸

電気通信大学 教授



田中 千秋

東レ(株)テクニカルセパレーターフィルム(株) 代表取締役会長



◎中尾 眞

(株)ジーシー 取締役会長



宮村 鐵夫

中央大学 教授

## グループ討論

## テーマ・趣旨・論点

### 第1班

#### 「ダイバーシティを取り込んだ品質経営を実践するための経営者の役割」

■リーダー：岩崎 日出男 (近畿大学名誉教授)・高木 美作恵 (日本科学技術連盟 嘱託)

これからの企業は、経営戦略としてダイバーシティ・マネジメントを確立しなければならない。すなわち、経営者はダイバーシティを課題ととらえるのではなく経営に生かせる強みとした経営に対する価値観・行動規範(見識・度胸・真摯)を持たなければならない。従業員が持つ様々な「違い」を尊重し受け入れ、積極的に多様な人材の能力を活かすことは、企業の優位性を確立するとともに顧客価値を創造するために重要なポイントである。そのような考え方を取り込んだ品質経営を実践するための経営者の役割はどのようなものか、討論したい。

論点  
①ダイバーシティを取り込んだ企業文化・組織風土の醸成をはかるための経営者の役割とは  
②企業を取り巻く環境変化に対応していくためのダイバーシティに富んだ組織づくりとは  
③グローバル事業を展開している企業にとってダイバーシティの推進方法とは  
④ダイバーシティに期待する経営効果とは何か

### 第2班

#### 「グローバル市場におけるダイバーシティを活かした製品・商品開発」

■リーダー：西 敏明 (岡山商科大学 経済学部 教授)・浅野 功 (パナソニック 株式会社 アプライアンス社 ホームアプライアンス事業グループ ランドリー・クリーナービジネスユニット 技術統括グループ開発管理グループ 主任技術)

グローバル化の加速により、世界のあらゆる地域の様々な顧客ニーズに対応した製品・商品開発が必要とされている。この中で、多様な環境に対応できる製品・商品を創造するためにダイバーシティを積極的に促し、活かす方法とは、どのようなものであるか。第2班では、グローバル市場に受け入れられる製品・商品(モノ)およびその開発プロセスでイノベーションを誘起させるために必要な活動や取り組みについて議論したい。

論点  
①多様化した市場環境における市場(顧客ニーズ)調査や適正品質を設定するためには、どのようにすべきか  
②ダイバーシティ活用による、製品・商品およびその開発プロセスにイノベーションを起こす方法は、どのようなものがあるか  
③上記を踏まえて、多様化した市場環境における製品・商品開発のあるべき姿はどのようなものか

### 第3班

#### 「ダイバーシティを取り込んだ品質経営を実践するための組織マネジメント」

■リーダー：猪原 正守 (大阪電気通信大学 情報通信工学部 情報工学科 教授)・金井 克之 (サンデン(株) STQM本部 執行役員 STQM本部長)

情報通信技術の発展による企業活動のグローバル化・ボーダレス化が進展する中で企業の持続的成長を維持・拡大するためには、拡大する「顧客概念」と顧客ニーズの「こと・もの」への多様化に対応した魅力あるソリューション(価値)提供を実現する組織マネジメントのあり方が問われている。ことが第97回品質管理シンポジウムで提唱された。第3班では、企業の持続的成長の実現を達成するために、グローバル化する経営機能を有効的・効率的に連携させるための組織マネジメントの重点課題と解決策について、多様化している参加メンバーの企業・組織特性をヒントとしたグループ討論を通じて討論したい。

論点  
①ICT化・グローバル化・ボーダレス化の進展に対応して、グローバル化している経営機能の効果的・効率的な連携を図り、魅力ある顧客価値提供をスピーディーに実現するための組織マネジメントのあるべき姿を明らかにする。  
②組織マネジメントのあるべき姿を実現するためのマネジメント課題を「組織のダイバーシティ」の観点から検討する。  
③抽出された課題を解決するための組織マネジメントのあり方を、参加メンバー企業の特性を考慮した上で模索し、参加メンバーに土産となるヒントを得る。

### 第4班

#### 「ダイバーシティを取り込んだグローバル企業の品質保証」

■リーダー：中條 武志 (中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授)・大橋 甚吾 (トヨタ自動車(株) TQM推進部 部長)

品質保証とは顧客ニーズと業務プロセスを結びつけ、新たな価値の提供を確実にする活動である。ニーズの多様化、業務プロセスに携わる人材の多様化が進む中、従来の活動をより進化・深化させることが求められている。ダイバーシティを取り込んだグローバル企業が、世界市場のどの拠点においても、しっかり品質保証をするためのしくみや取り組みについて討論したい。

論点  
①グローバル市場における品質保証と国内における品質保証との違いは何か  
②多様化した市場環境における品質保証を担う人材の要件とは何か  
③社内人材の多様性を尊重して受け入れ、その積極的な活用を目指す品質保証のあるべき姿、また、その実現のための条件とは何か

### 第5班

#### 「ダイバーシティを活かした顧客対応プロセスのあり方」

■リーダー：大藤 正 (玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授)・道添 順一 (株)ニチレイ 経営監査部 内部統括グループリーダー)

グローバルな市場であってもドメスティックな市場であっても、顧客の要求・要望は多様化している。また、商品・サービスそのものだけでなく、顧客と接する場での対応が顧客の信頼や好感に大きく影響し、その結果は「顧客満足度調査結果」として雑誌やネット上をにぎわせている。そこで、5班では商品・サービス提供後の「顧客対応プロセス」に焦点を当て、統一テーマである「ダイバーシティ」をどのように活用していけば、さらに顧客の信頼・支持を獲得していくかについて討論したい。

論点  
①多様化する顧客の要求・要望に対応した、理想的な「ダイバーシティ」を活かした顧客対応プロセスとはどのようなプロセスか  
②上記のプロセスを阻害する現状の問題点・要因は何か  
③②の現状を踏まえて①に近づけていくために、確実にステップアップしていくために重要な課題は何か、(品質経営の視点で提言できないか)

### 第6班

#### 「ダイバーシティを重視した人材の育成」

■リーダー：光藤 義郎 (文化学園大学 特任教授)・荒井 秀明 (株)小松製作所 コマツウエイ総合研修センタ 所長)

多様化する市場環境の激変に適応し得る柔軟で芯の強い組織、更には現状を打破しイノベーションを起こすことによって新たな顧客価値を創造・提供し得る活性化された組織に変えていくために、ダイバーシティを理解・実践・活用し得る人材の育成について討論したい。

論点  
①ダイバーシティを理解・実践・活用し得る人材に求められる要件とは？  
②そのような要件を満たす人材を採用・発掘・育成していくための組織風土・体制・しくみは？  
③上記を進めていく上で阻害要因とその除去策、或いは成功要因とその実践策は？

プログラム		開催期日：2014年6月5日(木)～7日(土)	
		会場：箱根ホテル小涌園	
月日	時間	科目	講演者
6/5 (木)	19:30~20:40	<特別講演> 「[持続可能な開発を超えて] ~21世紀のイノベーション~」	渡邊 浩之氏 内閣府 政策参与 ITS Japan 会長
	20:40~21:00	質疑・応答	トヨタ自動車(株) 技監
	21:00~22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00~23:00	談話室(参加自由)	
6/6 (金)	8:30~8:40	主催者挨拶	(一財)日本科学技術連盟 役員
	8:40~8:50	<オリエンテーション> 「グローバル時代におけるダイバーシティを取り込んだ品質経営の実践」	中尾 眞氏 (株)ジーシー 取締役会長 ※98QCS 担当組織委員
	8:50~9:50	<基調講演> 「ダイバーシティ経営とWLB支援の課題」	佐藤 博樹氏 東京大学 大学院情報学環 教授
	9:50~10:00	質疑・応答	
	10:00~10:20	休憩	
	10:20~11:20	<講演1> 「IBMのグローバル経営とダイバーシティ推進」	梅田 恵氏 日本アイ・ビー・エム(株) 人事広報部 部長
	11:20~11:30	質疑・応答	
	11:30~12:20	昼食・休憩	
	12:20~13:20	<講演2> 「経営戦略としてのダイバーシティ」	佐々木 常夫氏 (株)佐々木常夫マネジメント・リサーチ 代表取締役
	13:20~13:30	質疑・応答	
	13:30~14:30	<講演3> 「富士通におけるダイバーシティ推進の取り組み」	塩野 典子氏 富士通(株) ダイバーシティ推進室 室長
	14:30~14:40	質疑・応答	
	14:40~14:55	グループ討論の主旨説明	中尾 眞氏 担当組織委員
	15:00~17:50	グループ討論(1)	
18:00~19:00	夕食(立食)		
19:10~21:00	グループ討論(2)		
21:00~23:00	談話室(参加自由)		
6/7 (土)	8:30~9:45	グループ討論報告(10分×6班※予備15分)	司会：中尾 眞氏 ファシリテーション：圓川 隆夫氏 (東京工業大学 教授)
	9:45~10:00	休憩	
	10:00~11:30	総合討論	報告：各班リーダー
	11:30~11:40	第98回 品質管理シンポジウム まとめ	中尾 眞氏
	11:40~11:50	次回(99回)品質管理シンポジウム案内	宮村 鐵夫氏 中央大学 教授 ※99QCS 担当組織委員
11:50~	昼食・解散		

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

# 参加要領

## 開催日時

2014年6月5日(木) 19:30~6月7日(土) 12:00  
(6月5日受付開始17:00~, 夕食18:00~)

## 会場

箱根ホテル小涌園「コンベンションパレス・蓬莱の間」  
〒250-0407 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平  
TEL. 0460-82-4111 FAX. 0460-82-4137

## 参加対象

企業の役員, 上級管理職の方々

## 参加費

○一般  
108,000円/1名(消費税込み)

※今回は、一般枠での女性参加者に限り、特別価格43,200円/1名でご参加いただけます。(通常一般価格:108,000円/1名)

○本シンポジウム賛助会員会社  
1名無料, 2人目から43,200円/1名(消費税込み)

※今回は、通常の会員無料参加枠1名に加え、会員会社からの女性参加者に限り、1名無料招待いたします。

※食事代(6月5日夕, 6月6日3食, 6月7日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚、宿泊費, 交通費はご負担ください。

## バス送迎サービス

JR小田原駅をご利用頂く参加者の方は開催地までのバス送迎サービス(時間帯限定)を致します。

### ①集合場所:

小田原駅 西口 改札口付近  
6月5日(木) 16:50発車→17:30 ホテル到着  
ホテル小涌園 駐車場付近

6月7日(土) 12:20発車→13:00 小田原駅到着  
※バス会社のバスガイドが案内板を持ってお待ちしております。  
※発車の30分前にバスは到着致します。

### ②定員:53名(乗車)

※先着順になりますので、定員を越えてしまった場合は、誠に恐れ入りますが、各交通機関をご利用頂きますようお願い致します。

### ③その他:

バス送迎サービスをご利用しない場合は、公共交通機関のバスをご利用ください。

## 申込方法・問い合わせ先

第1次〆切を4月17日(木)とさせていただきます。

一般財団法人 日本科学技術連盟 教育推進部 第一課

品質管理シンポジウム担当

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL:03-5378-1213

FAX: 03-5378-9842 E-mail: tqmsemi@juse.or.jp

# 申込方法

下記の申込フォームから必要事項を入力し、お申し込みください。  
以下のフォームで参加者5名まで申し込むことが可能です。

<https://fofa.jp/juse/a.p/144/>

## 申込画面フロー

連絡担当者  
入力画面



参加者1  
入力画面



参加者5  
入力画面



確認画面



登録完了画面

※

※この間に参加者2, 参加者3, 参加者4の入力画面があります。

**ご入力時の注意事項: メールアドレスや電話番号などの英数字を入力の際は、必ず半角で入力してください(全角でも入力することができてしまいますので十分ご注意ください)。**

### 1 連絡担当者入力画面【全て必須項目】

お申込受付後「関係資料」をお送りする方の情報を入力します。参加人数(シンポジウム賛助会員)と参加人数(一般)の欄には、実際の参加人数(数値のみ)を入力してください。  
※シンポジウム賛助会員会社の場合は、参加人数(一般)の欄には0(ゼロ)を入力してください。

### 2 参加者1の入力画面【全て必須項目】

参加者情報(1画面1名分)を入力します。

### 3 参加者2~5の入力画面【任意項目】

参加者が2名以上いる場合は、全て必須です。

参加者が2名以上いる場合はこの画面以降入力してください。参加者が1名の場合は、何も入力せずに、確認画面までお進みください。参加者2~5の入力画面では入力項目の必須チェックを行っておりませんので、2名以上を入力する場合は、入力漏れがないようにご注意ください。